



日

# 本の源流再発見

国宝・瑞龍寺

## 城下町から商都へと変貌し発展



日本遺産「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡 一人、技、心」に認定されている富山県高岡市は、富山市に次ぐ県内第2の都市で、加賀前田家二代当主前田利長が礎を築きました。その後、城下町から商業都市へと変貌をとげ、大いに発展しました。

File 26 富山県高岡市

## 風格のある家並みが残る鋳物と商業の町

前田利家の嫡男で加賀前田家二代当主前田利長が、高岡に城を構えたのは、若いころに見た山城(守山城)からの眺めが、要塞として軍事的機能を備えるとともに、水陸交通の要衝として経済的な機能も備える理想の地と考えたからです。その後男子がなかったため養子の利常に家督を譲りましたが、隠居していた富山城が焼失したため、1609年新たに高岡城を築城しました。しかし、その5年後に利長が死去したことと、徳川幕府による一国一城令により廃城となったのです。

三代当主となった利常は利長の異

母弟で、加賀百二十万石の家督を譲り受けたことに深く恩義を感じていました。そこで、高岡をひらいた利長の意思を尊重し、麻布の集散地としたり、城跡内に米蔵と塩蔵を設置したりするなど、商業都市への転換策を積極的に講じます。その結果、この地は商都として新たな道を歩み始めました。

また、利長の菩提<sup>ぼだい</sup>を用うため、壮大な伽藍<sup>がらん</sup>を持つ国宝・瑞龍寺や、総面積1万坪と近世大名の個人墓所としては破格の規模を誇る利長の墓所を建立。利長の遺徳をしのぶとともに、町の繁栄を願いました。



鋳物工房利三郎

伝統的な町家が多く残る山町筋<sup>やまちょうすじ</sup>の中で、ひときわ立派な建物が国指定・重要文化財の「菅野家住宅<sup>すがのけ</sup>」です。菅野家は、高岡の政財界をリードした名家。特に壮麗な仏壇は圧巻で、仏壇が立派なことが有名な富山県でも、屈指といえるでしょう。





▲ 菅野家住宅

1900年高岡の大火の直後に再建され、同時期の建築と推定される土蔵造りの重厚な建物です。現在も住居として使用されていますが、一部が一般公開されています



▲ 旧南部鑄造所のキュポラと煙突

1924年建造。煙突は高さ14.5mのレンガ造り。鉄製のキュポラに鋳物と燃料のコークスを入れて風を送り、鋳物を溶かしました



▲ 金屋町

前田利長が高岡城を築城する際、鑄物師を集めてできた町。現在も江戸時代から昭和初期に建てられた町家が立ち並んでおり、漆喰(しっくい)壁や千本格子が美しい街並みを形成しています



▲ 高岡古城公園(前田利長公像)

廃城となった高岡城ですが、水堀や土塁は残り、現在は公園となっています。この像は、多くのブロンズ像が並び本丸広場にあります

高岡市は、商人の町であると同時に職人の町としても繁栄しました。とりわけ発展したのが、前田利長が高岡の町をひらくにあたり鑄物師を招いたことが始まりといわれる鑄物の製造です。その伝統を今に伝える一軒「鑄物工房利三郎」は、工房見学をはじめオリジナルの模様を付けた風鈴や箸置きなどを作る鑄物体験も可能です。

同店がある金屋町は鑄物師町とも呼ばれ、重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。その中に近代化の歴史を示す遺構として、旧南部鑄造所のキュポラ(溶解炉)と煙突が

残っています。金屋町をはじめ、市内には銅像が多く設置され、それらを見て歩くだけでも楽しめます。高岡駅前には、高岡市出身の漫画家 藤子・F・不二雄の代表作「ドラえもん」の銅像も。おなじみの登場人物たちが遊んでいる姿にほっこりする人も多いはず。

ココに注目

中尾清月堂のどら焼き「清月」は、大きくてふかふかの生地が人気。餡は、小豆、白小豆、抹茶の三種類。夏は冷凍どら焼きも。



日立グループ事業所紹介

今回訪れた富山県には日立アプライアンス株式会社 北陸支店があります。冷凍・空調機器の営業拠点として、空調設備製品、大型冷凍製品、低温設備製品などの製品販売、施工、サービスを通じたソリューションを提供しています。

日立アプライアンス株式会社 北陸支店 富山県富山市黒崎627番地3  
<http://www.hitachi-ap.co.jp/>